

平成26年度 あきた型学校評価

- 1 1年部
- 2 2年部
- 3 3年部
- 4 総務部
- 5 教務部
- 6 進路指導部
- 7 特別活動部
- 8 生徒指導部
- 9 保健部
- 10 図書情報部 図書
- 11 図書情報部 情報
- 12 研修部
- 13 生活科学科

秋田県立大館高等学校 全日制課程

重点目標	基本的な生活習慣を身に付けさせ、進路を意識し基礎学力の向上を図る。
------	-----------------------------------



現 状	本校のルールや中学校との違いを認識させ、高校生活への切り換えができるよう指導していく必要がある。更に、統合校一期生としての自覚をもたせた規律ある生活を基盤として高校生活を充実させていきたい。
-----	---



具体的な目標	①基本的な生活習慣を身につけさせ、自律の精神を養う。 ②進路目標を明確にし、進路目標実現のための基礎学力を養う。 ③各種活動に積極的に参加させ、社会性・協調性を養う。
--------	---

P



目標達成のための方策	①・挨拶、言葉遣い、整容、時間厳守等基本ルールを厳守させ、規律ある生活を送らせるよう努める。 ②・授業を大切にす姿勢や態度を身に付ける指導をする。 ・基礎学力定着のために、朝読書・朝学習を継続して取りこませる。 ・資格取得を奨励する。 ・進学希望者の学力向上を図るため、課外授業等学力向上策を実施し、参加を促す。 ・成績不振者の対策に努める。 ③・部活動および生徒会や学級活動への積極的な参加を促す。 ・学校行事やボランティア活動への積極的な参加を促す。
------------	--



具体的な取組み状況	①学年部全体による指導体制で継続的な指導を行い、徹底を図った。 ②朝学習、課外、成績不振者対策は継続的に実施した。 ③学年集会、ホームルーム、個別面談等で参加を促した。
-----------	--

D

達成状況	①概ね達成できた ②全体として進路意識の高まりとともに意欲的な姿勢がでてきている。成績不振者の対策には、更に根気強く取り組んでいく必要がある。 ③1年生なりに各種活動に積極的に参加し、活躍できた。
------	--



自己評価	(評価) A 目標は概ね達成できた。ただし、基礎学力を向上させるためには個人差に配慮した指導のあり方が課題である。今後も、課題の改善に向けて学年全体で計画的継続的に取り組みたい。
------	--

C

↑
基準評価
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) 基本的には達成できていると思われます。人に言われて行動するのではなく、自分から自然にできるようになればと思います。新入生として戸惑いと素直さがあり、継続されたい。
------------	---

C



自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	従来の生徒の良さを伸ばしながら、授業・特別活動・学校行事において、中堅学年として考えて行動できるような活動場面を意図的に提供し、主体性を身に付けたい。
------------------------	---

A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
A : 改善方策の実践 (Action)

重点目標	規律ある生活習慣を確立させ、進路実現に向けた学力の向上を図る。
------	---------------------------------



現 状	欠席が少なく基本的な生活習慣が身についている生徒は多いが、課題の提出状況や整容には課題が残る。家庭学習への取り組みが十分でないので進路意識や学習意欲を高め、学習習慣を定着させていきたい。
-----	---



具体的な目標	①規律ある生活習慣を確立させる。 ②進路実現のため学力の向上を図る。 ③各種活動に積極的に参加させ、社会性・協調性・責任感を養う。
--------	---

P



目標達成のための方策	①・挨拶、言葉遣い、整容、時間厳守等基本的なルールを遵守させ、規律ある生活を送らせるよう努める。 ②・面談等を通じ具体的な目標設定と達成に向けた取り組みを促す。 ・朝学習や家庭学習を継続して取り組ませ、学習習慣を定着させる。 ・インターンシップの経験が進路選択に生きるよう事前事後の指導に努める。 ・成績不振者の対策に努める。 ③・各種活動への積極的な参加を促し、役割を果たせるよう支援する。
------------	---



具体的な取り組み状況	①学年部全体で継続的に指導し、徹底を図った。 ②全生徒との面談やインターンシップの事前事後指導などは予定通り実施できた。また、学年集会や学年・学級通信を通じて毎日家庭学習に取り組むよう指導した。 ③学年集会やHR等で2年生としての役割を理解させ、各活動への積極的な参加を促した。
------------	---

D

達成状況	①おおむね達成できたが、もう少し元気な挨拶ができるようにしたい。 ②進路目標の方向性は見えてきているが具体性に乏しい生徒もいる。 ③各行事に積極的に参加し、特に体育行事では活躍できた。
------	--



自己評価	(評価) A	基本的な生活習慣についてはこのまま継続して指導していきたい。全体的に家庭学習の時間が増えてきているので、授業はもちろん朝学習や課外も工夫を重ね、進路目標達成に向けて学力向上に努めたい。
------	-----------	--

C

↑
基準評価
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 何か一つでも、すごく良いところがあれば、それでいいのかと思われる。自主性とおおらかさを必要とさせ、社会人になることが目前に迫っていることを理解させてほしい。
------------	-----------	--

C



自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	高校生活の最終学年となることを意識させ、礼儀やマナー、体調の自己管理などがしっかりとできるように指導する。 自分の進路に対する研究を深め、やるべきことを明確にするとともに自己理解に努めアピールポイントを持てるようにする。
------------------------	---

A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
A : 改善方策の実践 (Action)

様式

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	社会的自立に向け、最高学年としての自覚ある生活習慣の確立と進路実現に向けた学力向上。	P
▽		
現状	学習・生活両面において、「自立」に向けた主体的な取り組みが課題である。スケジュール管理をしながら計画的に、また目標に向けて継続的に取り組む態度を身に付ける必要がある。	
▽		
具体的な目標	①卒業後の社会生活を意識した生活習慣の確立を促す。 ②進路実現に向けた学力向上を図る。 ③各種活動への積極的参加を促し、社会性・協調性を高める。	
▽		
目標達成のための方策	①挨拶や言葉遣い、時間厳守等について、社会で要求されるマナーやルールとして理解させ、身に付けさせるよう日常的な指導をする。 ②進路研究を深めさせ、スケジュールをもとに計画的な実施を促す。朝学習確認テスト、進路別模試では事前・事後の指導を充実させる。課外授業への主体的な参加を促す。 ③部活動、学級活動、学校行事等において最高学年としてリーダーシップの発揮と積極的参加を支援する。	

▽		
具体的な取組み状況	①学年・学級通信、学年集会などでの全体指導と、適宜の個別指導を実施した。また、外部講師によるキャリア教育（4回講座）を実施した。三者面談やPTA面接を通じては保護者と連携した指導を実施できた。 ②朝学習及びその確認テスト、進学・公務員対象の平常課外及び休業中の進路別全員参加の課外、進路別の模試を計画的に実施した。 ③部活動や学校行事などへの参加について最高学年としての意識を喚起した。	D
達成状況	①ほとんどの生徒が挨拶や言葉遣い等マナーやルールを守る姿勢を向上させた。 ②進学希望で出願中の4名の生徒を除き進路目標を達成できた。 ③部活動、学級活動、学校行事等ではリーダーシップを発揮し積極的に参加できた。	

▽			
自己評価	(評価) A	生活習慣の確立、各種活動への参加では、ほとんどの生徒にかなりの成長が見られた。また、進路においても継続的な指導の結果が出た。ただし、主体性という面ではまだまだ課題があり、今後の自立・自律を期待したい。	C

↑ 基準評価 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽			
学校関係者評価と意見	(評価) A	ほとんどの生徒で成長が見られたとのこと、素晴らしいです。主体性を自覚させる努力が必要である。人前で自分の思いを発表させる訓練を実施してほしい。	C

▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策		進路選択の際には、まず生徒自身に将来設計を立てさせ、進路を決定させる。その上で進路達成のために自身が取り組むべきことを明確に意識、実行させる。その過程を通じて主体性を身に付けさせるようにする。また、授業で自分の考えを表現させることはもちろん、将来設計や実行の状況等をHR等で発表させたり、話し合う機会を設定する。	A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
 C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
 A : 改善方策の実践 (Action)

様式

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	P T A活動の充実をはかり、学校と家庭、地域社会との交流を深め、社会全体で生徒たちを育むように努める。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭でのP T A屋台、強歩大会の関門運営、監察など、特定の行事への協力は多く得られているが、それ以外のP T A活動に対しては、出席者が少ないのが現状である。 ・高P連の東北大会には、会長などごく一部のP T A役員以外、参加した方がおらず大会の雰囲気がなかなかつかめない。 		
↓			
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A総会、評議員会、支部P T Aの出席人数を上げ、保護者同士の距離を縮めることで、P T A活動の活発化をはかる。 ・各方面との連携を密にし、東北高P連大館大会を成功させる。 		
↓			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A行事の連絡は早めに行い、P T A役員はじめ支部長との連絡を密にすることで、会員への連絡、声掛け等も要請する。 ・職員が会員と交流する機会を持ち、学校との心理的距離感をなくす。 ・東北地区高P連大館大会へ、より多くの参加者・協力者を募る。 		
↓			
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A行事に関する連絡を早めに実施し、各行事への職員の参加も多くなるよう促した。 ・東北地区高P連大館大会の実行委員として、P T A会長を筆頭に大会の円滑な運営に努めた。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・どの行事も1ヶ月ほど前には連絡できた。P T A研修旅行（職員9名参加）含め、各行事に多くの職員が参加し、保護者との交流を深めた。 ・東北地区高P連大館大会には、本校から27名が参加し、他校の会員との交流を大いに深めた。多くの方々の協力により運営もスムーズに行われた。 		
↓			
自己評価	(評価) A	(根拠) 東北高P連大館大会をはじめ、各行事ともクラス減にもかかわらず多くの保護者の参加、協力をいただいた。おかげさまで、本校の様々なP T A活動に対し、全国高P連福井大会において全国表彰がなされた。	C

↑ 基準評価
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) P T A活動の参加者が少なくなっていく現在、参加者が多かったとのこと、気運を下げないように頑張ってほしい。P T A会合の参加者向上に向けて、工夫を試みてください。	C
↓			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善	P T A総会・支部P T A総会を利用し、年間の活動計画・行事予定を早めにアピールしていく。また、閉校行事など含めて、保護者の方々が参加、協力していただける機会を増やし、P T A活動の活発化に努めたい。		A

P : 目標の設定 (P l a n) D : 実践 (D o)
C : 実施状況の中間把握 (C h e c k - 1) C : 自己評価 [年度末の評価] (C h e c k - 2)
A : 改善方策の実践 (A c t i o n)

重点目標	学力伸長		P
現 状	家庭学習に取り組んでいる生徒が少なく、学習習慣が定着していない。		
具体的な目標	家庭学習の習慣づけを行う。		
目標達成のための方策	1, 2学期中間考査前に家庭学習時間調査を行い、その集計結果を学級担任に返すことで、成績との比較から家庭学習の指導に役立ててもらふ。調査用紙を改訂する。		
具体的な取組み状況	視覚でわかるように、時間を塗りつぶす方法の調査用紙に改訂することで、帰宅してから就寝までの自分の行動を把握できるようにした。これは、自分がどんな生活を送っているかを認識させるためである。集計したデータは、次回の考査1週間ほど前までにHR担任に返し、学習指導に役立てることができるようにした。		D
達成状況	調査、集計を2回実施。		
自己評価	(評価) A	(根拠) 達成状況から	C
基準評価	↑ A : 具体的な活動がなされて目標を達成できた。 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。 ↓		
学校関係者評価と意見	A	(意見) 目標が少しでも上がるということは、更に上のが可能と思われるので、頑張ってください。家庭学習の調査結果を保護者・生徒に伝え、結果を理解させてほしい。	C
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	家庭学習の調査結果を通知表と一緒に保護者にも伝え、家庭での指導にもつなげていく。		A

P : 目標の設定 (Plan)、D : 実践 (Do)、C : 実施状況の中間把握 (Check-1)

C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)、A : 改善方策の実践 (Action)

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	組織的・継続的な進路指導体制の充実と進路目標の達成	P
▽		
現状	生徒の希望は、大学短大・専門学校・就職に大別され、ほとんど同じ割合である。国公立大学は、ここ2年5名前後の合格である。昨年度は国公立大学への進学者は減少したが、4年制大学の進学者は増加している。就職は、全職員による面接・小論文指導やPTA・同窓会の協力で3年間全員内定している。約2/3が管内希望である。管内求人数は減少したいないが、生徒の希望の職種とは異なるものが多い。早めの対応で進路を達成させたい。	
▽		
具体的な目標	キャリア教育を充実させ早期から進路を意識させる 補充的・発展的学習を充実させて、進路達成のための学力を高める 確かな勤労観・職業観の育成とコミュニケーション能力を向上させる	
▽		
目標達成のための方策	進路指導資料の積極的活用 課外・模試の計画的指導と内容の充実 面接指導の充実	

具体的な取り組み状況	進路指導資料を総合的な学習や面接指導において有効活用した 模試の反省を踏まえた課外やサテライン講座の効果的な指導をした 職員による面接及び小論文指導等を推進した	D
達成状況	三者面談・進路ガイダンス等で進路指導資料を活用できた 各種模試からわかった生徒の弱点を課外やサテライン等で補強できた 全職員の協力により面接指導や小論文指導を効果的に指導できた PTA等による面接練習を効果的に実施できた 外部の講師を招いたキャリアガイダンスを実施できた	

自己評価	A	キャリア教育の充実を目指して努力できた。進路の意識を高く持たせることを継続して実施するのが今後の課題である。	C
------	---	--	---

↑
基準評価
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 教育することにより進路への意識を持たせることが出来たことは素晴らしいことです。良い意味で「自己アピール」出来るように面接等の指導をお願いしたい。	C
------------	-----------	--	---

自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	今までの取り組みを検証し、生徒の進路意欲を充実させるように、キャリア教育に努めていきたい。	A
------------------------	---	---

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
A : 改善方策の実践 (Action)

重点目標	望ましい集団活動を通して、よりよい生活を築こうとする態度を育てる		P
▽			
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動は、各委員会の活動は概ね活発である ○強歩大会、清掃除雪ボランティアを例年実施している ○部活動の加入率は高く、文化部の活躍がめざましいが、運動部の上位大会進出者はやや少ない。 		
▽			
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 生徒会活動の活性化を図るとともに学校行事の協力を通してリーダーの育成に努める 2. 生徒の心に残る行事を企画運営して、地域と一体となった教育活動を展開する 3. 部活動の基本的行動の見直し 		
▽			
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 1. 体育祭、HR対抗大会、学校祭などで各委員会がリーダーシップをとって活動できるように支援する 2. 強歩大会、ボランティア活動を各分掌、各組織と協力して安全に盛会に実施する 3. 制服での帰宅、後片付けなど基本的行動の徹底を促す 		
▽			
具体的な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各委員会や生徒会中心に企画運営し、各関係諸機関には職員が対応し生徒が活動しやすい環境をつくった。 2. 各分掌、各関係諸機関と連携し実施できた。 3. 4月に運動部活動合同集会を実施、特活だよりを配布した。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各行事とも成功に終わることができた。 2. 各分掌や関係諸機関とも連携し成功に終わることができたが、来年度に向けての課題は残る。 3. 集会后には、改善が見られる。しかし、時間が経つと効果が薄れるため、定期的を実施していきたい。 		
▽			
自己評価	(評価) B	(根拠) 1、2に関しては、職員全体の協力を得て成功したが、細かい改善点は必要。3については取り組み方を見直し、来年度へ引き継ぎたい。	C
<p>A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見)上位大会への進出者が少ない。校内での競争意識が不足しているのではないかと。先生たちの強い指導がほしい。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	部活動合同集会を定期的実施し、また、「特活だより」を継続して行い、部活動の取り組みを変えていきたい。先生たちが積極的に部活できる環境作りも行っていきたい。		A

P: 目標の設定(Plan)、D: 実践(Do)、C: 実施状況の中間把握(Check-1)

C: 自己評価[年度末の評価](Check-2)A: 改善方策の実践(Action)

重点目標	社会的・職業的に自立するための自己指導能力をはぐくむ		P
▽			
現 状	基本的生活習慣が確立されている生徒が多い一方で、自己指導能力に欠け、規範意識に乏しい生徒もいる。全体的には、他者に優しいが、主体性に乏しい面がある。		
▽			
具体的な目標	①端正な整容ができ、場面に応じた対応ができる生徒を育てる。 ②規範を遵守する生徒を育てる。 ③生徒の教育上の問題について望ましいあり方を助言する教育相談を行う。		
▽			
目標達成のための方策	①整容指導，校門指導，交通安全指導を年間10回行う。 ②生徒指導部会を定期的に行い，生徒の情報交換をする。 ③全職員で指導方針を共有し，全員で指導する。 ④必要に応じて個に応じた指導を行う。		
▽			
具体的な取り組み状況	①整容指導，校門指導，交通安全指導を年間10回実施した。 ②毎回の定例職員会議のあとに情報交換会を実施した。 ③指導方針を共有して，全員で指導した。 ④いじめ調査については，個に応じた指導を行った。		D
達成状況	一部で携帯端末のルールの不徹底が見られた。使用場所が守られないことや目的外利用があった。		
▽			
自己評価	(評価) A	(根拠) 全体に自己指導能力を身につけつつあると思われる。	C
↑	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた		
基準評価	B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない		
↓	C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 根気良く指導していただき。携帯電話など自分の殻に閉じこもった行動等が気になる。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	地域各校と連携をとりながら，生徒の家庭でのネットワーク利用の指針を作り，望ましい利用のしかたを指導する。		A

平成26年度 生徒指導部の業務分担

- 部 員 ◎吉成、吉岡、鷹觜、今畠、持主、佐々木幸、土濃塚、櫻庭博
- (1) 総括・渉外・報告（生徒手帳，個人カード，写真）・・・吉成
- (2) 校内生活指導
- ・ 整容指導、校門指導・・・・・・・・・・・・・・・・吉成
 - ・ 異装届、盗難紛失届、拾得物・・・・・・・・今畠
- (3) 校外生活指導
- ・ 下宿、アルバイト、旅行、祭典参加、諸届・許可願・・・・持主
 - ・ 交通安全（自転車ステッカー）・・・・・・・・持主
- (4) 教育相談
- ・ 年間計画の作成、実態調査の実施、支援計画の作成・・・・吉岡
 - ・ 外部機関との連絡調整・・・・・・・・鷹觜
- (5) 地域生研高校・専門学校部会
- ・ 文書管理・発送・・・・・・・・吉岡・今畠

行事予定

- (1) 校内巡視（職員による日番活動、いじめの未然防止）
- (2) 校門指導（年間10回，挨拶の励行）風紀委員
- (3) 薬物乱用防止教室の実施（9月，外部講師）
- (4) 校外巡視の実施（地生研高校部会での街頭指導ほか）（夏季，冬季，祭典）
- (5) 自転車点検と交通安全教育（交通安全委員会、PTAとの連携）
- (6) 運転免許取得に関する指導（自動車学校、地生研高校部会と連携）

校外巡視（地域生研高校部会行事）

- 夏季休業中・・・吉成，櫻庭博
- 神明社祭典・・・吉岡，今畠
- 冬季休業中・・・土濃塚，佐々木幸
- アメッコ市・・・持主

様式

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	心身の健康の保持増進と環境美化活動の推進	P
▽		
現状	生徒を取り巻くストレスや人間関係などの悩みが複雑化している。また、生活習慣の乱れからくる体調不良等を自らの健康問題としてとらえることができない生徒が多い。清掃活動は比較的良く行われているが、職員の定数減により、指導・監督の職員の確保が厳しい状態にある。	
▽		
具体的な目標	1. 生徒の心身両面の健康管理能力の育成に努める。 2. 快適な学習環境の整備や校内美化に努める	
▽		
目標達成のための方策	1. 健康問題に対する意識向上を図り、自己管理及び積極的な疾病治療につなげる。また、問題を有する生徒については、日常より職員間での共通理解を図り、S.C 等関係機関と連携しながら支援する。 2. 年度当初からの指導により日常の清掃活動の定着を図り、生徒の自主的活動体制を整える。 3. 大清掃の時、保健部員が巡回して清掃指導にあたる。	

▽		
具体的な取り組み状況	1. 問題を有する生徒については、S. C. を活用してカウンセリングをしてもらう。 2. 清掃区域に担当職員がついて指導に当たる。 3. 思うように巡回できなかった。	D
達成状況	問題を抱える生徒は継続的にS. Cのカウンセリングを受けており、まずは落ち着いて学校生活を送っている。本校は欠席者が少なく、今年度は長期欠席者もなかったのも、そう言う意味では心身の自己管理ができる環境にあるのではないかと思う。清掃に関しても、担当職員が少なく無理をお願いしているにもかかわらず、職員皆様のご協力で生徒の自主活動体制ができていたと思う。大清掃の巡視だけは、目標達成のための方策に組み入れたが実施できなかった。	

▽			
自己評価	(評価) A	急な人事の変更があったが、もう少し巡視に柔軟な対応をすればよかった。その他は達成できた。	C

↑ 基準評価 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

▽			
学校関係者評価と意見	(評価) A	人が見ていなくても、自分で清掃・片付け等が出来ればいろんな事に対応できる様になると思います。心の健康面のサポートも進めてほしい。	C

▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策		清掃に関しては人手不足が見込まれるので、特別教室は使用したクラスが教科担任の下にモップがけと黒板程度の簡単な清掃を当番制にして担当するといったスタイルを徹底させる。心の健康面に関しては、生徒だけでなく、いろいろな問題を抱えた生徒を持つ担任もS. C. のアドバイスを受けながら全職員で共通理解の上支えていきたい。	A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
 C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
 A : 改善方策の実践 (Action)

様式

評価領域	図書情報部 図書班
------	-----------

重点目標	生徒の読書と学習活動に資する図書館の整備をする。		P
▽			
現状	昨年度の利用状況は、貸出冊数74冊、授業での利用時間数54時間と、前年に比べ貸出冊数は約半分、授業時数は約4割であった。委員会活動としてはカウンター当番や新聞の配架など校内活動のほか、市立図書館での読み聞かせのボランティア等を依頼されることがある。図書だよりの発行等、利用促進に努めているが、放課後の学習の場としては改善が必要である。		
▽			
具体的な目標	①生徒と教員に親しまれ、授業で活用される図書館づくりを推進する。 ②図書委員会活動の活性化を図る。		D
▽			
目標達成のための方策	①-1 新入生を対象とした図書館利用指導を4月中に実施する。 -2 生徒に向け図書だよりを発行して読書するよう喚起する。 -3 授業と進路学習に資する本を整備する。 ② 委員の日常業務の他、他校との活動やボランティア活動への参加を促す。		
▽			
具体的な取組み状況	①-1・3 1は予定どおり実施した。3は進路指導部と各教科から過去の赤本や問題集などを譲り受け、図書室に学習コーナーを設けた。 -2 図書だよりの発行は一回のみであった。 ② 夏と冬、市立図書館での高校生読み聞かせボランティアに委員が参加した。また、市内五校合同読書会へも参加した。		D
達成状況	上記の取組みは概ね達成できた。		
▽			
自己評価	B	概ね達成できたが、部内の役割の偏りに配慮する必要がある。	C
↑ 基準評価 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
▽			
学校関係者評価と意見	B	インターネット環境が整っている現在、難しい部分があると思いますが、頑張ってください。入学時から読書目標を示させてはどうでしょうか。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	入学時のオリエンテーションなどを活用し、生徒に本の魅力や効果を知って活用してもらえPRをしていき、本に触れる機会を増やしていきたい。		A

P：目標の設定 (Plan) D：実践 (Do)
 C：実施状況の中間把握 (Check-1) C：自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
 A：改善方策の実践 (Action)

重点目標	本校の情報を積極的に発信する		P
▽			
現状	昨年度は、ほとんどホームページを更新せず、Webサイトとしての役割を果たしていなかった。また、シンプルなWebサイトにすべきであろう。		
▽			
具体的な目標	ホームページの更新を忘れずに行う。 ホームページを一新。		
▽			
目標達成のための方策	情報収集に努める。 HTMLとCSSによるホームページ作成。		D
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 主として新聞記事を活用させてもらう。 CSSのプログラム学習 学校代表のメールは頻繁にチェックし、内容によりフォルダ単位に振り分けた。 		
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> CSSによるホームページにリニューアル。しかし、更新は頻繁に行わなかった。 学校代表のメールは頻繁にチェックし、分掌、個人に印刷して渡した。また、不要なメールは削除した。 		
▽			
自己評価	(評価) B	更新の回数が少なかった。	C
↑ 基準評価 ↓	<p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ホームページの更新は大変だと思います。頑張ってください。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	情報収集の方法を改めることや、更新しやすい方法を探っていきたい。		A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do)
 C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2)
 A : 改善方策の実践 (Action)

重点目標	職員の研修機会の確保と研修体制の充実に努め、資質向上を図る		P
▽			
現 状	①研修体制の充実に努め、研修の円滑化を図っている。 ②校内授業研修と、教育相談関係等その年度で必要性のある職員研修をそれぞれ1回ずつ企画し開催している。 ③研修情報の適切な紹介に努めている。		
▽			
具体的な目標	①研修体制を充実させ、研修の円滑化を図る。 ②校内授業研修・職員研修を開催し、職員の資質の向上を図る。 ③研修情報を適切に紹介し、研修機会の周知に努める。		
▽			
目標達成のための方策	①初任者研修の職員が所属する各部・教科と連携し、研修が円滑に進むように環境を整える。 ②校内授業研修会を1回実施する。(10月～11月に1ヶ月程度) 職員研修会を1回開催する。 ③研修情報を適切に掲示または回覧する。		
▽			
具体的な取り組み状況	①各分掌・学年部・教科の協力のおかげで、研修しやすい環境であった。 ②10月初旬の統合校合同授業研修を皮切りに、11月下旬の地歴公民科・数学科の研究授業とタイアップしながら、10月下旬から約1ヶ月間で実施した。「工夫のポイント」や「今後試してみたいこと」についてのコメントを各教科からもらった。 教育相談分野の講話を実施。テーマは「傾聴について」。 ③研修情報は、内容に応じて適宜回覧し紹介した。		D
達成状況	①充実した研修体制の下、研修者が積極的に取り組みよく頑張ってくれた。 ②授業研修や職員研修を予定通り実施した。 ③職員研修の場の提供、研修情報の周知に努めた。 ・教育実習も無事終了した。		
▽			
自己評価	(評価) A	(根拠) ・研修の機会や情報の提供。 ・統合校合同企画を含めた授業研修や職員研修の実施。 ・充実した研修体制の下、初任者の全研修プログラムを終了。	C
↑ 基準評価 ↓	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) どんな職場でも指導者の研修機会の充実が必要です。組織としての取組が重要です。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	毎日多忙な職員の皆さんが充実した研修機会を得て研鑽し合えるよう、次年度も授業研修をはじめとした各種研修をより計画的・組織的に実施していきたい。		A

評価領域	生活科学科
------	-------

重点目標	地域を担う人材を育成するために、実践的・体験的活動を通して、より専門的な知識や技術を習得させる。		P
▽			
現状	2年生から専門科目の学習に取り組んでいる。3年は調理19人・福祉10人、2年は被服5人・調理15人・福祉12人が選択している。授業や行事、家庭クラブ活動等を通してより実践的・体験的活動を重ねながら、人間性豊かな生徒の育成をめざしている。生活実践コースでは技術検定1級をめざし、専門的な知識や技術の実践力を養う。福祉コースでは介護職員初任者研修が実施される。昨年度卒業生の進路は進学12人就職16人であった。		
▽			
具体的な目標	①家庭に関する専門的な知識や技術を習得させる。 ②資格・各種検定を取得させる。		
▽			
目標達成のための方策	①1) 地域で活躍する専門家・伝統文化の指導者からの指導の機会を積極的に設ける。専門性の伝授と地域文化伝承の担い手としての意識を涵養する。 2) 課題研究の授業で地域交流活動を計画し、テーマ研究を推進する。 3) 学校祭や地域の行事（きりたんぼ祭り・産業祭）に参加し、学習成果を披露する。生徒が指導者になる講習会を企画し、異世代間交流の実施 4) 地元企業や産業との連携を図る。 ②1) 福祉コース3年の介護職員初任者研修にしっかり取り組ませる。 2) 家庭科技術検定や各種資格取得に積極的に取り組ませる。		D
具体的な取り組み状況	①1) 県飲食業後継者等育成支援事業でイタリア料理店シェフの指導受講。 高校教育課「地域との連携プロジェクト」つるし雛講習会(3回)・米粉料理講習会、福祉講話、茶道教室、調理師専門学校料理講習会 2) 大館南が丘幼稚園、介護施設山王台との定期的な交流実施 3) 学校祭：被服展示・料理コンクール・米粉マドレーヌ・お米のムースの販売の実施。大館圏域産業祭：ファッションショー、米粉クレープ「こめーぷ」試食、手づくり体験（松ぼっくりリース）製作で学習成果発表。「食の国あきた」県民フェスティバル参加。公民館行事「生涯学習フェスティバル」焼きだまこ・かまぶく講習会・気仙沼ボランティア活動参加、スキーインターハイ（かまぶく試食）参加。大館南小学校、養護学校交流、十二所老人クラブで生徒が指導者になって交流。 4) 立花ファームとブラックベリー共同開発及び試食販売活動 ②1) 専門家による講義・施設実習を4月から9月実施。 2) 食物調理4級1年生全員受験。他の1・2級は選択で受験		
達成状況	①家庭クラブ研究発表大会、商品開発決勝大会入賞。食物・被服・福祉地域行事を通して多方面に異世代間交流ができた。地域の専門家からの指導、地域の方々への生徒による講習会等を経て、生徒はより専門性を身に付け伝統文化の将来の担い手として、地域を支える人材としてのきっかけを自己の中に持てた。 ②介護職員初任者研修 130時間 10名修了 第39・40回家庭科検定 合格率 94.5%		
▽			
自己評価	(評価) A	科の教育活動を通して学んだことを様々な形で発表・交流する中で大高生としての誇りを持ち主体的に動ける生徒に成長することができた。	C
<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ユニークな学科として更に磨きをかけてください。 資格取得・外部交流・自主的活動と特色ある活動に感心します。	C
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	来年度も多くの方々からの指導をいただきながら専門的な知識技術を習得をしつつ生徒が成長できるように、様々な事に挑戦していきます。		A

P : 目標の設定 (Plan) D : 実践 (Do) C : 実施状況の中間把握 (Check-1) C : 自己評価 [年度末の評価] (Check-2) A : 改善方策の実践 (Action)